

【貢献活動 特別賞】パク・ジョアン・スックチャ氏

～日本で最初のワーク／ライフ・コンサルタントとして活躍～

1. 取組みの概要

2000年12月に日本で最初のワーク／ライフ・コンサルタントとして独立。アパショナータ，Inc. 設立。いち早く日本にワーク・ライフ・バランスという概念を導入した。ダイバーシティ（多様性）及びテレワーク（在宅勤務）も専門とし、その促進に力を注ぐ。

自らが掲げるミッション（【個人に向けて】仕事と私生活の健康的なバランスをとりながら、個人にとって意味のある充実した人生を歩めるように、働く環境を変えていく支援をする／【企業に向けて】企業の一番重要な資源である人材の能力と可能性を最大限発揮させ、21世紀の不確実な時代に繁栄できるようコンサルティングおよび教育研修を提供する／【社会に向けて】夢の持てる社会への構築に貢献する）のもと、全国各地での講演活動や、個別企業へのワーク・ライフ・バランス普及のためのコンサルティング活動等を行う。これらを通じて、日本におけるワーク・ライフ・バランス普及のため、企業・行政において問題提起、議論を牽引してきた。

2. ワーク・ライフ・バランス推進に取組んだ経緯、理由

日本でのワーク・ライフ・バランスをめぐる議論動向は、子育て支援・女性支援に限定されたり、極端な「ゆとり重視」などと捉えられたりしがちである。しかしながら、このような捉え方では、働き方そのものの改革が抜け落ちた理解になりかねないため、ワーク・ライフ・バランスは「仕事と私生活の共存」と明確に定義した。その上で、組織での取り組みは「従業員が働きながら仕事以外の責任や要望を果たせる環境づくり」であり、そのワーク・ライフ・バランスの取り組みの目的は、「やりがいのある仕事と充実した私生活のバランスをとりながら、持っている能力を最大限に発揮するようサポートすること」として、このようなワーク・ライフ・バランスにかかる誤解の是正および普及に取り組んだ。

3. 取組みによる具体的効果

これまで取り組んできたワーク・ライフ・バランスの概念が、ようやく企業間や、一般社会の意識レベルにおいて普及しつつある。

パク・ジョアン・スックチャ（Joanna Sook Ja Park）氏
アパショナータ，Inc. 代表 ワーク／ライフ・コンサルタント
日本生まれ，韓国籍。 米国ペンシルバニア大学経済学部卒業。シカゴ大学 MBA（経営学修士）取得。米国と日本で米国系企業に5年間勤務。その後，韓国延世大学へ語学留学。日本に戻り米国系運輸企業に入社。同社にて日本，香港，シンガポール，中国等，太平洋地区での人事，スペシャリストおよび管理職研修企画・実施を手がける。2000年に退社後、日本で最初のワーク／ライフ・コンサルタントとして独立し，アパショナータ，Inc. 設立。ダイバーシティ（多様性）およびテレワーク（在宅勤務）も専門とする。
著書：「会社人間が会社をつぶすーワーク／ライフ・バランスの提案」（朝日新聞社）
共著：「CSR「働きがい」を束ねる経営」（日本経済新聞社）。